

「親子ふれあいスポーツデー」

綿谷 寛（光華小地区・2期目）

新型コロナウイルスの感染拡大がなかなか収まらない中、感染対策をしつかり整えた上で、去る6月4日（日）の午前9時30分から正午まで、市立武蔵野小学校の校庭及び体育館において、「親子ふれあいスポーツデー」を開催しました。

当日は快晴に恵まれ、校庭ではグラウンド・ゴルフ、ストラックアウト、輪投げの3種目を行う一方、体育館では、新体力テスト（握力、上体起こし、長座体前屈、立ち幅とび、20mシャトルラン、反復横とび）を行いました。参加者は子ども62人、大人38人の合計100人でした。スポーツ推進委員は体力測定を担当しましたが、事業協力依頼団体として、グラウンド・ゴルフ協会とレクリエーション研究会が参加しました。

当初参加者はまばらでしたが、30分程過ぎると親子連れの姿が多く見られるようになり、体育館の中はかなり賑わいを見



「ボッチャ昭島カップ」

田中 道雄（東小地区・2期目）

東京都市町村ボッチャ大会の前哨戦でもある「ボッチャ昭島カップ」が、6月25日総合スポーツセンターの第1体育館で行われました。

天候に左右されない室内競技で、使用する球は柔らかく、片手でつかめる野球のボール程度の大きさで、転がすことができれば、年齢・性別・障害の有無に関わらず、誰でも参加可能なスポーツです。

ボッチャは、昨年行われた東京2020のパラリンピックで正式種目になつたばかりで、この栄えある大会の「混合個人BC2」では、杉村英孝選手が金メダルを取り、日本中に感動を与えてくれました。これが一

回は空きスペースに東京オリンピックで注目を集めた「ボッチャ」の体験コーナーを設けましたが、思った以上に人気があり、特に子どものハッスル姿が見受けられました。



グ戦形式で行われました。かなり練習を重ねてきたと思われるチームがあれば、今日が全く初めてというチームもあり、中にはマイボールを持参するチームもあるなど、昭島市民のボッチャに対する関心の深さを感じました。各チームとも、一球毎に作戦を練りながら投球し、スパークショットが時折放たされました。その中でも終盤の準決勝や決勝では、球の上に球が乗るなど、白熱した試合に歓声が湧きました。参加者全員が和気あいあいと楽しむ中、ボッチャ昭島カップは無事終了することができました。